

綾道 あやんつ

自然・植物編 しぜん・しょくぶつへん



綾道

あやんつ

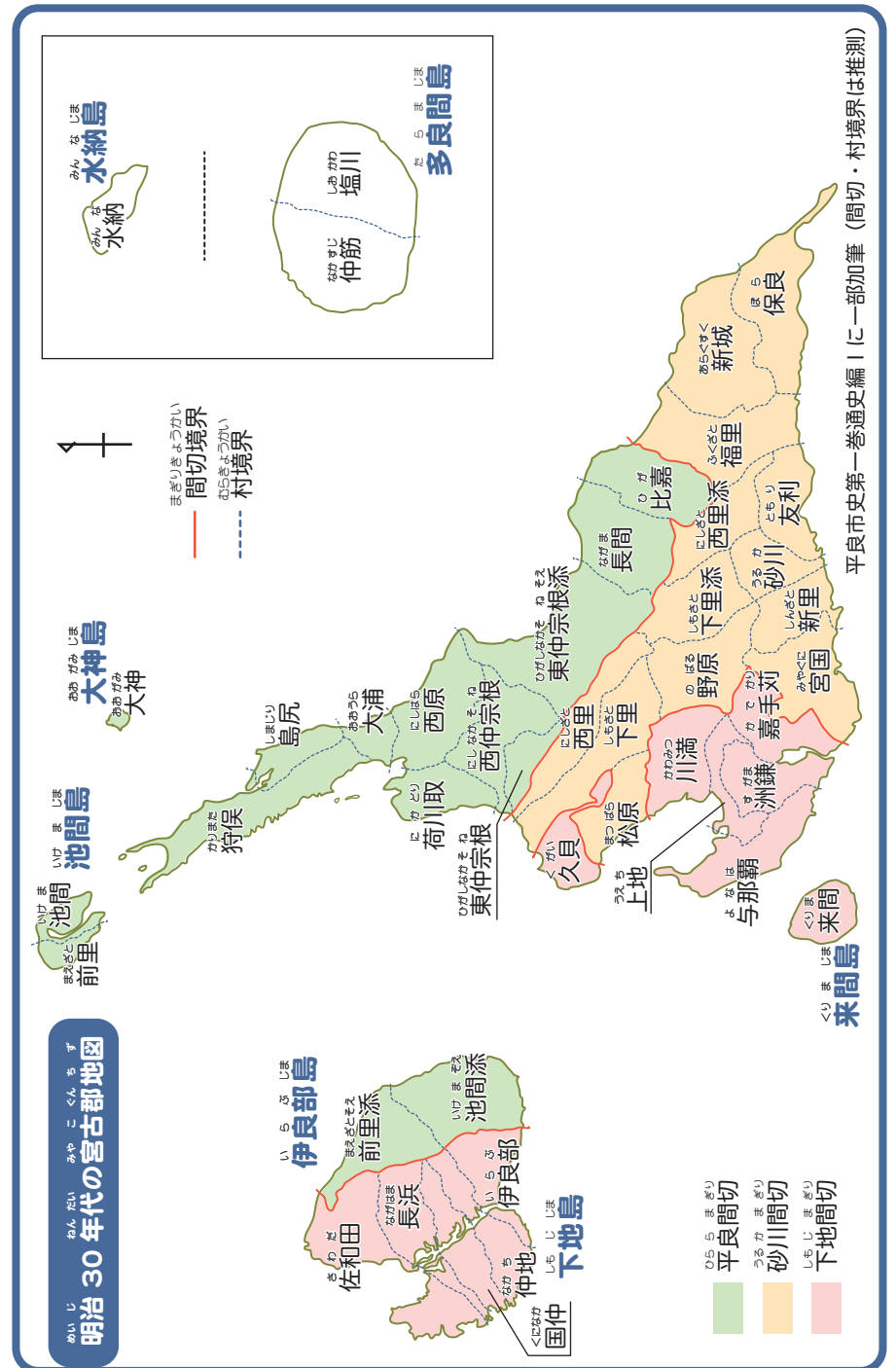
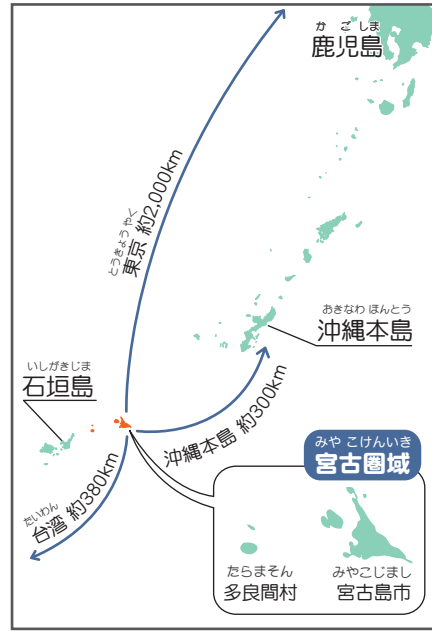
「趣のある道」のことを、宮古のことばで「あやんつ」といいます

宮古島の位置と面積

宮古島市は大小6つの島(宮古島、池間島、大神島、来間島、伊良部島、下地島)で構成されています。

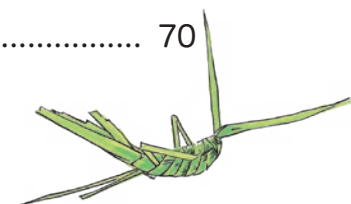
総面積は204キロ平方メートル、人口約5万6,000人で、人口の大部分は平良地区に集中しています。

島全体がほぼ平坦で、山岳部や大きな河川もなく、生活用水などのほとんどを地下水に頼っています。



宮古諸島の植物と自然のなりたち.....	06
環境ごとの観察コース.....	08
まちなかでよく見る 花・実ごよみ.....	10
宮古の代表的な植生.....	12
前浜散策コース(砂浜).....	14
砂浜の環境で見られる植物.....	16
用語集・植物の見分け方のコツ.....	19
来間島散策コース(海岸林).....	20
海岸林の環境で見られる植物.....	22
東平安名崎散策コース(岩礁・風衝地).....	24
岩礁の環境で見られる植物.....	26
人との関わり ススキ.....	28
人との関わり ソテツ.....	29
人との関わり アダン.....	30
島尻散策コース(塩湿地).....	32
マングローブの見分け方.....	34
島尻マングローブと池原干潟(与那覇湾)のいまむかし.....	35
池間湿原散策コース(陸水).....	36
陸水の環境で見られる植物.....	38
池間島いまむかし.....	39

環境を変えてしまう外来種.....	40
大野山林散策コース(森林).....	42
森林の環境で見られる植物.....	44
つる植物はおもしろい！.....	48
菌類・淡水藻類・コケ類.....	49
県内最大の熱帯植物園.....	50
森をまもる、「そで」と「マント」.....	52
厳しく管理された杣山.....	53
牧山散策コース(森林・御嶽林).....	54
祭祀と植物.....	56
祭祀に使われる植物.....	58
ブーとブーギ.....	59
宮古の固有種、希少種.....	60
“ミヤコ”とつく植物.....	63
人里、耕作地、草地の植物.....	64
歌や民話と植物.....	68
遊びと植物.....	69
文化財の体系図・一例.....	70

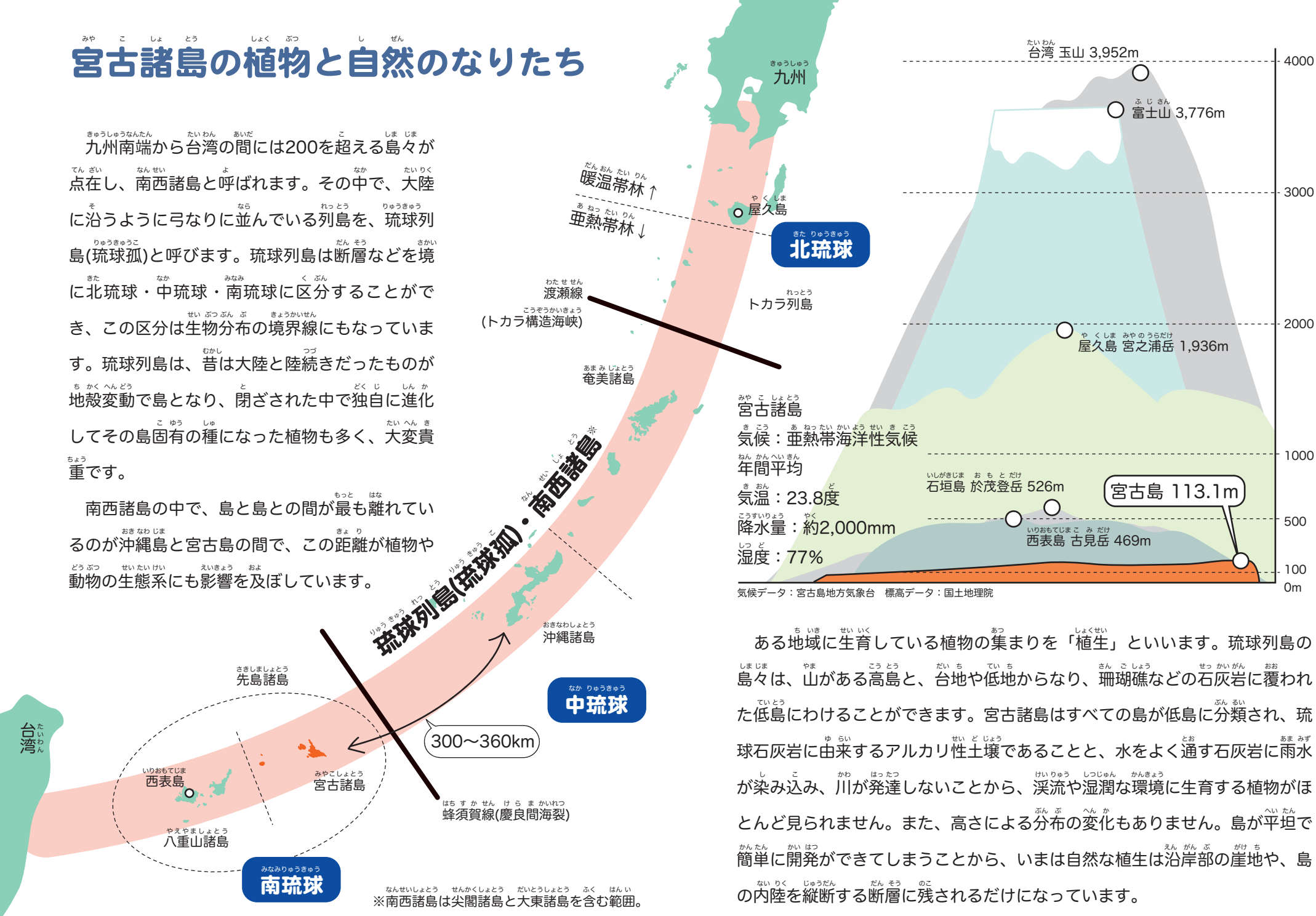


※御嶽は祭祀などを行う大切な場所です。神聖な場所なので入らないようにしましょう。

宮古諸島の植物と自然のなりたち

九州南端から台湾の間には200を超える島々が点在し、南西諸島と呼ばれます。その中で、大陸に沿うように弓なりに並んでいる列島を、琉球列島(琉球孤)と呼びます。琉球列島は断層などを境に北琉球・中琉球・南琉球に区分することができ、この区分は生物分布の境界線にもなっています。琉球列島は、昔は大陸と陸続きだったものが地殻変動で島となり、閉ざされた中で独自に進化してその島固有の種になった植物も多く、大変貴重です。

南西諸島の中で、島と島との間が最も離れているのが沖縄島と宮古島の間で、この距離が植物や動物の生態系にも影響を及ぼしています。



ある地域に生育している植物の集まりを「植生」といいます。琉球列島の島々は、山がある高島と、台地や低地からなり、珊瑚礁などの石灰岩に覆われた低島にわけることができます。宮古諸島はすべての島が低島に分類され、琉球石灰岩に由来するアルカリ性土壌であることと、水をよく通す石灰岩に雨水が染み込み、川が発達しないことから、溪流や湿潤な環境に生育する植物がほとんど見られません。また、高さによる分布の変化もありません。島が平坦で簡単に開発ができてしまうことから、いまは自然な植生は沿岸部の崖地や、島の内陸を縦断する断層に残されるだけになっています。

環境ごとの観察コース



陸水 池間島 p36

塩湿地 島尻マングローブ p32

伊良部島

しもじまこうこう
下地島空港

リュウキュウ
マツ
90号線

しもじま
下地島

森林・御嶽林 牧山 p54

マニラヤシとヤエヤマヤシ
243号線 宮古空港前

砂浜 前浜 p14

海岸林 来間島断崖 p20

いけ ま しま
池間島

おお がみ しま
大神島

リュウキュウ
チショノキ
p61



ソテツ
83号線



森林 大野山林 p42

モモタマナ
旧194号線



みや こ しま
宮古島

ハスノハギリ林
新城海岸



テリハボク
国道390号線



ハスノハギリの大木

岩礁・風衝地 東平安名崎 p24

お気に入りの風景を探してみましょう！



島内には様々な樹木が街路樹や屋敷林として植えられています。あなたのお気に入りの風景を探してみてください。

本文の見方

宮古の方言名

植物の写真

植物名

植物の特徴と宮古での利用例など(地域によって異なる)

※方言名は一般的な呼び方を記載。地域によって異なる。読みの表記は宮古島市史『みやこの自然と人』に準ずる。

外 = 外来種
帰 = 帰化植物



まちなかでよく見る 花・実ごよみ

四季の変化がさほど大きくない宮古でも、季節によって色々な花々が咲き、実がなります。1年を春夏秋冬の4つの季節に分け、さらにそれぞれを6つに分けたものを二十四節気と言い、旧暦では季節を表すために用いられていました。宮古の漁業や農業、祭祀は、いまでもこの暦に沿って行われています。

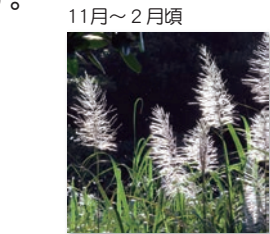


トックリキワタ

色のついた部分は花びらではなく、がくの変形した苞。花は中心の白い部分。



ブーゲンビレア



サトウキビ



サンダンカ

マンジューギー



パパイヤ



ホウオウボク



マンゴー



カンヒザクラ



ソバ



テップウユリ



カエンボク



ガジュマル

屋敷周りに防風林として植えた。広がった枝に登って遊んだり、樹液をガムのように噛んだ。



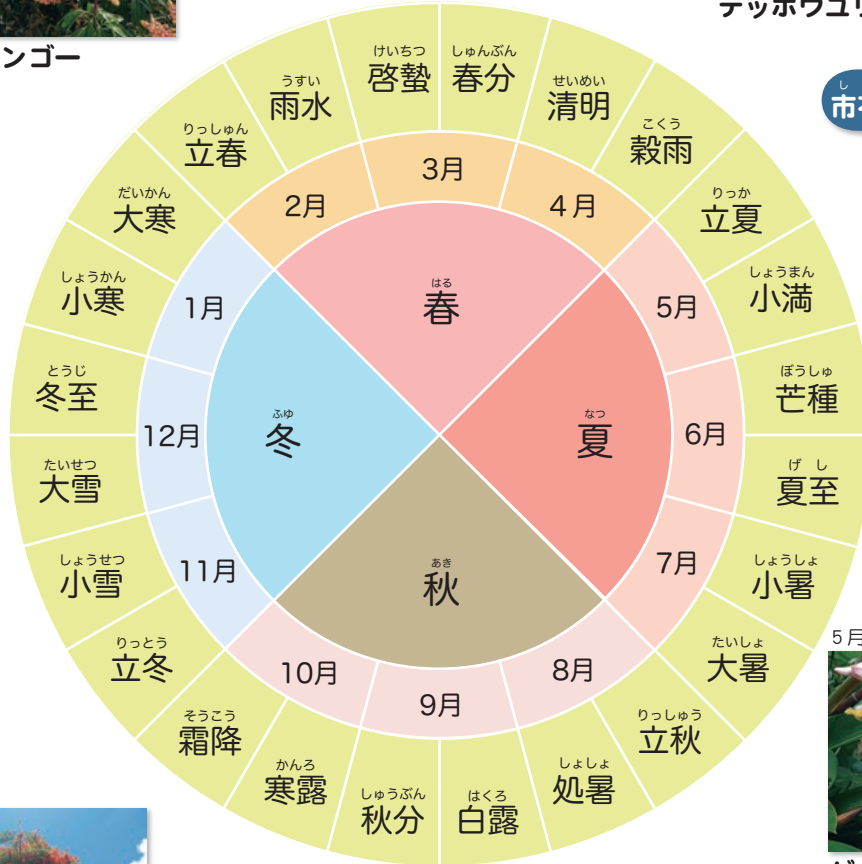
バナナ



アカバナ



サガリバナ



デイゴ

ドウフウキギー

初夏に真っ赤な花を咲かせる。成長が早く材が柔らかいため、各地域の獅子の獅子頭に使われた。



ゲットウ



ドラゴンフルーツ



ブッソウゲ (ハイビスカス)



ドラゴンフルーツ



アダム

アダムギー



ゴールデンシャワー



マンゴー



サガリバナ

宮古の代表的な植生

島全体が低く、琉球石灰岩でおお

われる宮古諸島は、植物にとっては塩分や潮風、乾燥、高熱、紫外線などの影響を受けやすく、生育するには過酷な環境です。

海岸域の環境は、岩礁、砂浜、塩湿地に分けることができます。海からの距離によって環境が変わるため、海岸沿いは草本類を中心とした植生が帯状に分布しています。

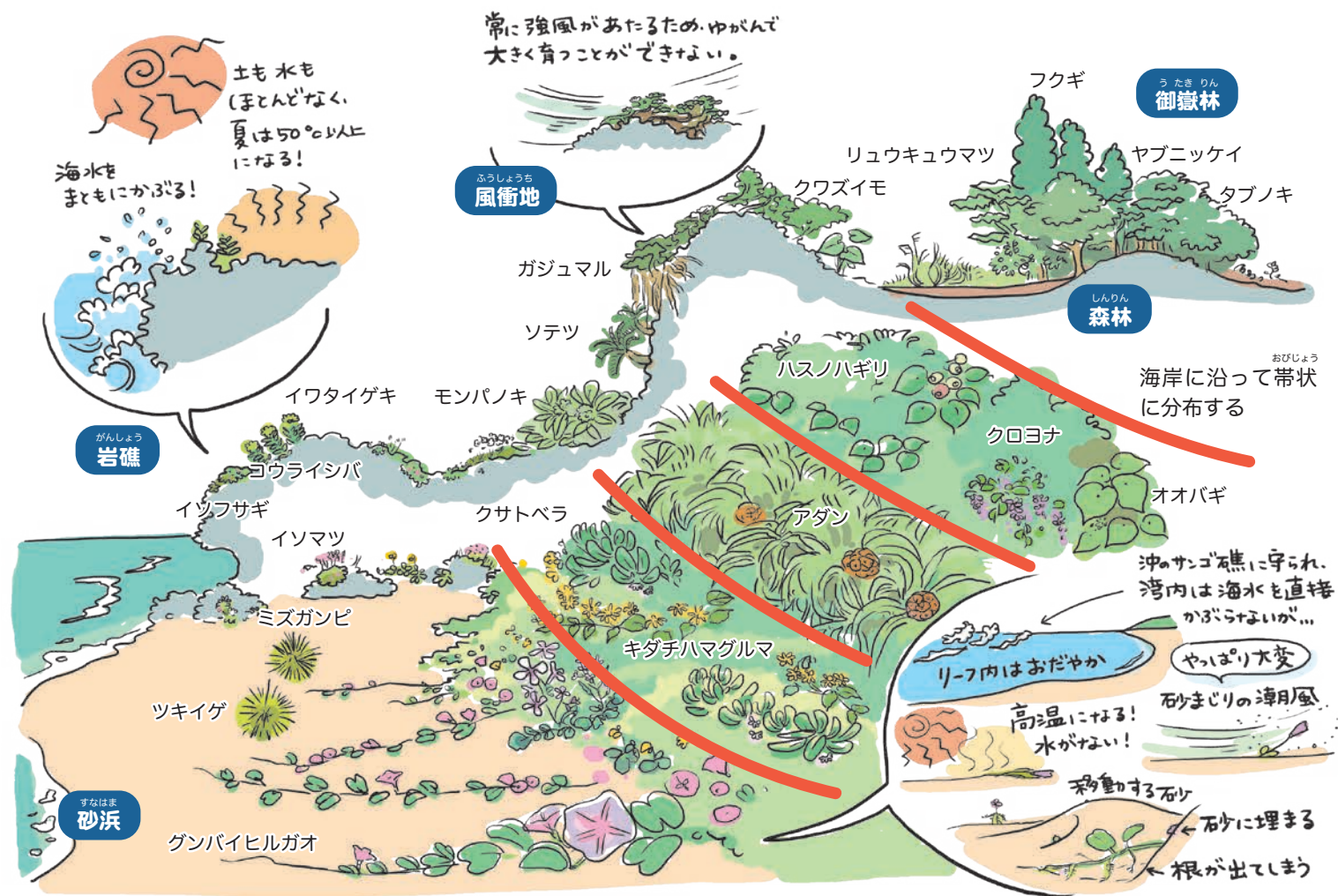
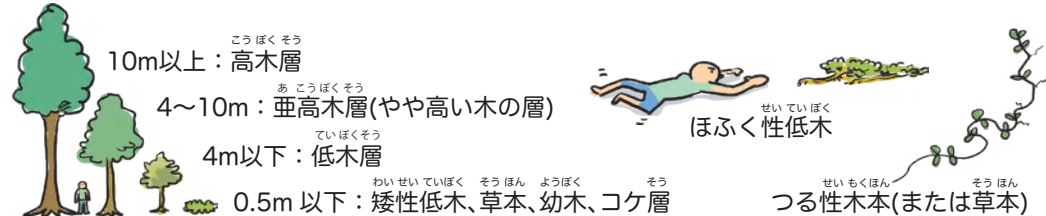
海岸域から陸側に入っていくと、徐々に低木林、高木林と植生が変わっていきます。宮古諸島は亜熱帯性照葉樹林域に位置し、石灰岩地のアルカリ性土壌に生えるタブノキやヤブニッケイ、ガジュマルなどの様々な木々が混在します。

また島の拝所である御嶽の周辺は、祭祀以外に立ち入りや伐採が禁じられていることから、島本来の植生が多く残っています。

照葉樹とは？



つややかな光沢のある葉を持つ樹木のこ



海岸域の植物のくふう

小さくなる



風に強く不安定な場所でも育つ

多肉化する



水を保つ

木のような肌になる



海水や熱に耐える

丈夫な膜や細かい毛をまとう



海水をはじく

塩腺や塩嚢をもつ



余分な塩分を出す

空洞化や厚い殻の種子



塩に強く海に浮かぶ

前浜散策コース(砂浜)

距離: 2 km 所要時間: 徒歩25分



ハテルマカズラ群落

常緑つる性多年草。コンペイトウのような形の実がなる。宮古では自生地が少なく、前浜の群落は環境省の特定植物群落に指定されており、とても貴重。

ホソバワダン

多年生草本。苦いで「ニガナ」。白和えや炒め物、刺身の薬味として食べられる。薬草としても利用した。

パマンギヤナ

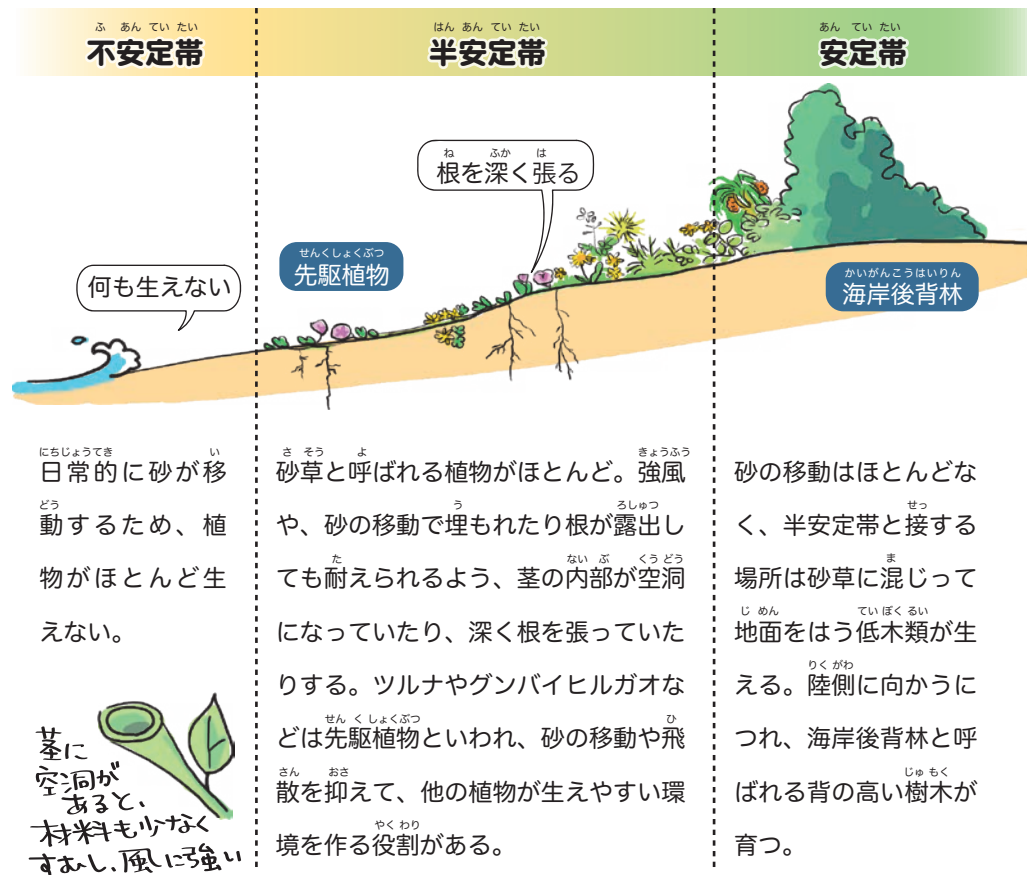


ツキイゲ

多年生草本。茎や葉は硬く、雌株の穂が熟すと風に吹かれながらコロコロ転がって種を落とす。イネ科では珍しい雌雄異株。

砂浜の環境

砂浜は、海に近いところから3つの地帯に区別できます。



茎に空洞があると、材料も少なくすむし、風に強い

砂浜の環境で見られる植物

パマカツア



グンバイヒルガオ



中央が濃い ハート形
ソコベニヒルガオ



中央が白い 小さい葉
ハマヒルガオ



紅芋も
七いれがオホ斗

つる性多年草。砂浜の前線に群生し、砂の移動を防ぐ。葉の形が軍配に似る。



ニーナス



スナヅル



つる性の植物

常緑つる性草本。葉は退化しており、茎に吸盤（寄生根）がある。色々な植物に巻きついて一面を覆う。昔は漆喰の粘りを出すのに使ったり、じゃり道にスナヅルを敷いて、汁の粘りで道を固めた。首里城の飲会門に行く歩道の隅に、スナヅルで固めた戦前の歩道が残っている。外来種のアメリカナシカズラは内陸に生える。

パマキャン



ハマゴウ



らくようしょうていぼく 落葉小低木。茎でカゴを作った。白い花が咲くシロバナハマゴウは、東平安名崎のみで見られる。

シロバナハマゴウ

パラプニ



ハマダイコン

2年生草本。ダイコンが野生化。葉を和え物にして食べた。



ハマアズキ
(ハマササゲ)

つる性多年草。小豆に似た種子をつくる。ウラナミシジミの食草。

海を渡る種たち

海流散布



浮かべてみよう！



まだまだあるよ！

ンギョー



キダチハマグルマ

つる性多年草。他の植物に寄りかかっている。農作物を束ねたり綱引きなどに使った。よく似たアメリカハマグルマの方が繁殖力が強く、広範囲に見られるが、本種の方が葉が広いので見分けることができる。



アメリカハマグルマ

ピーング



ハマオモト
(ハマユウ)

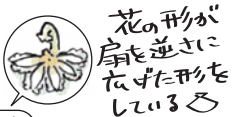
多年生草本。枯れにくく、土地の境界や、屋敷の四隅に植えて魔除けとして使用。葉をおできに貼ったりもした。

ピンザヌマイ



ハマボウス

2年生草本。春先にピンクの花を咲かせる。ヤギのエサとして使った地域では「ピンザヌマイ（ヤギの米）」と呼ばれていた。



ススウキ



クスアベラ

じょうりよくていぼく しお つよ
常緑低木。潮に強く、
かい かん ぜん せん
海岸の前線にアダン
とともによく見られ
る。防風・防潮の役
わり 割をする。

パマススウキ



モンパノキ

みき すいぢゅうめ
常緑低木。幹で水中眼
がね つく は
鏡を作り、葉はくもり
どめにした。魚の中毒
げ どのさい さいし
の解毒剤。祭祀ではお
さら が
血代わりに使用。



“魔物の金鏡”

マズムヌカガム



イソフジ

しる こま
常緑低木。白い細かい
け は
毛が生えているので木
ぜん たい あおしろ み
全体が青白く見える。



ショウジョウソウ

多年生草本。ポイン
ンセチアの仲間。
あか いろ
赤く色づいたのは
葉で、花は中心に
あは ちゅうしん
ある。

ユーナギー



オオハマボウ

こう ぼく
常緑高木。葉のつる
つるした面でおにぎ
りをにぎった。トイ
レットペーパーにも
使った。



タマヴギー



サキシマハマボウ

常緑高木。大きい木
は床柱に使用。小さ
い木は車軸や馬の
鞍、エサ箱、三線の
棹など幅広く使わ
れた。

用語集・植物の見分け方のコツ

いち ねんそう たね め ば い ない
1年草：種から芽生えて1年以内に
枯れる草のこと

た ねんそう なん ねん はな
多年草：何年も花などをつける草。

きゅうこん ね い つづ ふく
球根や根が生き続けるのも含む

そう ほん くさ しつ くき
草本：草質のやわらかい茎を持つ植

物のこと。木部があまり発達せず木

本のように大きくならない

もく ほん もく しつ も じゅ ひ
木本：木質の茎を持つ植物。樹皮の

うち がわ せいしやう みき ふと ねん りん
内側が成長して幹が太くなり、年輪

ができる。ただし熱帯では常に成長

するので年輪はできにくい

じょうりよく みどり は
常緑：1年中緑の葉をつける

らくようじゅ ふゆまえ すべ は お じゅもく
落葉樹：冬前に全ての葉が落ちる樹木

りん えん はやし くさ ち きやう
林縁：林のふち。林と草地などの境

かい ぶ ぶん
界部分

せんく しよくぶつ ら ち
先駆植物：植物が生えていない裸地

にいち早く育つ植物のこと。成長が

早く栄養が少なくても育つ

わいせい せいぶつ いっ ばん てき
矮性：生物の一般的な大きさよりも

こ がた せいしゆく せいしつ
小形なまま成熟する性質

ざいらいしゅ ぶん ぶ じ
在来種：その土地にもともと分布(自

生)する種

がいらいしゅ そと も こ
外来種：外から持ち込まれた種

き か
帰化：外から持ち込まれた種が野生

じょうたい はんしよく
状態で繁殖すること

植物の見分け方のコツ

葉っぱを観察する。



大きさ、形、色、つや、毛...

花や実のはわりやすいが
時期が限られる。



五感で観察

- 目で見える
- 鼻でかく
- 手でさわる
- 耳できく
- 口で味わう

※有毒なものもあるので、必ずおとなといっしょに観察しましょう

来間島散策コース(海岸林)

海岸林の環境



海岸林の環境で見られる植物

ゴータギー



モモタマナ

はんらく よう こう ぼく か じつ
半落葉高木。果実はオオコウモリがよく食べる。昔は実をわって中の白い部分を食べた。



ウカバギー



クロヨナ

じょうりよく ぼうふう ぼう
常緑高木。暴風・防潮として植えた。畑の肥料にした。種は油がとれる。この種も海流散布する。



スサンキギー



マルバチシャノキ

しょうこうぼく
落葉小高木。ざらざらした葉は、鍋などを洗うタワシにしたり、床掃除や髪をとかすのにも使用した。



オオクサボク
(ウドノキ)

やわ
常緑高木。柔らかい材ですすぐ折れるので、クサボク(草木)という名がついた。実に粘りがある。



ヤブラン

そうほん かいりょう
多年生草本。改良した土地の土止めとして植えられた。



オキナワ
ティカカズラ

もくほん りんえん
常緑つる性木本。林縁に生え、白い長い毛をつけた種子は風によって散布される。



サクララン

常緑つる性草本。サクラに似た花が垂れ下がって咲く。葉は肉厚なのが特徴。

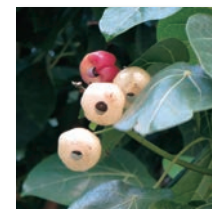


サクラランというのに、サクラの仲間でもない



ヤエヤマアオキ
(ノニ)

どくどく
常緑小高木。独特の匂いがある実は海流で散布される。最近では薬用に利用される。



ハスノハギリ

かんそう
常緑高木。乾燥や強風に強く、防風林に適している。果実は枯れたらカラカラと音が出るので、おもちゃにした。



トゲカズラ

もくほん えだ
常緑つる性木本。枝の太いトゲで、岩や他の樹木をはい上がる。粘着性のある果実は鳥に付着して運ばれる。



カニグギー

エビヅル

常緑つる性木本。果実は食べられる。祭祀に使用する。薬用に使った。



アリマ
ウマノスズクサ

常緑つる性木本。ジャコウアゲハの食草。花がサキソフォンの形をしており、鼻につけて遊んだ。



ワニグチモダマ

常緑つる性木本。種が仏具の鰐口に似ることから名がつけられた。



ホウライカガミ

常緑つる性草本〜木本。小さな星のような花が特徴的。日本最大のチョウであるオオゴマダラの幼虫の食草。



東平安名崎散策コース(岩礁・風衝地)

距離:約1.1km 所要時間:徒歩約15分



ユイカバナ



テッポウユリ

多年生草本。東平安名崎で自生しているのが多く見られる。球根は炊いたり蒸して芋と同じように食べていた。

アオガンピ
ミズガンピ

平安名崎灯台

アサガオガラクサ
イリオモテアザミ
クサシギカズラ
クロイゲ
キツネノメゴ
コウライシバ
テッポウユリ
ナンゴクハマウド
ハマゴウ
ナハエボシグサ
ハリツルマサキ

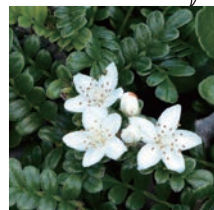
ハチジョウススキ
ハマシタン



ミズガンピ

常緑低木。昔は水中眼鏡の材料にしたり、生でも燃えるので漁師が薪に使っていた。盆栽に使われる。

イムボーギー



テッポウユリ

沖縄県RDB:絶滅危惧Ⅱ類
環境省RD:絶滅危惧Ⅱ類
宮古島市保全種

常緑矮性低木。このような生え、マット状の群落をつくる。東平安名崎では最大級の群落が見られる。盆栽用に盗掘され数が減っている。

ギスキ



葉をさわると
イモリススキ
との違いが
わかる!
つるつる
している

ハチジョウススキ

多年生草本。葉が厚くて広く、トゲがないので手を切ることはない。まとまった群落を東平安名崎で見ることができる。

踏み荒らさないように気をつけましょう。

足元には、小さくて貴重な種がたくさん生えています。むやみに茂みに立ち入らないようにしましょう。

岩礁・風衝地の環境

宮古諸島の海岸の大部分は、波などで削られてできた崖を含む石灰岩の岩礁です。土がほとんどなく、波しぶきがかかり、台風で海が荒れると海水をまともにかぶるため、植物たちは岩のわずかな隙間に根を張り、塩分にも耐えています。また、強風が当たり続ける場所では、樹形が陸側へ撫でつけられたように変形したり、普通よりも小さく育ちます。そういった作用を風衝作用と言います。

東平安名崎は国指定の名勝としても有名です。岬の一带は亜熱帯地方の風衝地特有の植物群落が発達しています。なかには分布が限られている植物もあるため、植物群落そのものが県指定の天然記念物になっています。



岩礁の環境で見られる植物

イムミズナ



イソフサギ

多年生草本。潮の
かかる岩の割れ目
に表面をふさぐよ
うに生える。



ミルズベリヒコ

多年生草本。茎や葉
は肉厚。ボロボロに
なるまで洗い、味噌
汁に入れたり、炒め
たり茹でたりして
食べた。



イソマツ

多年生草本。古株
や大きい株は幹が
木質化し、その質
感が松に似ている
ことから磯の松と
名がついた。



モクビヤッコウ

常緑低木。全体に灰
白色の毛が生え
白っぽく見える。葉
はちぎると匂いを
放つ。



イワタイゲキ

常緑ほふく性草本。
赤い小さな花が咲
く。コウライシバの
中に混ざってよく
見ることができる。



コウライシバ

多年生草本。蛍光色
の花が特徴的。切り
口から出る乳液は
触るとかぶれるの
で注意。



ソナレムグラ

多年生草本。葉のふ
ちが巻いて、針状に
なる。別名ビロード
シバとも呼ばれる。



ヒメキランソウ

多年生草本。地上
を這うようにして
広がり、地面を覆
いつくす。花が咲
く時期は地面が紫
色のじゅうたんの
ようになる。ピン
ク色もある。



アオガンピ

つる性多年草。枝が
杉の葉のように見
える。芋のように膨
らんだ根は生薬に
なる。



アオガンピ

常緑低木。紙の材
料として皮をはい
で乾燥させ、お金
に変えた。



ナンゴクハマウド

多年生草本。草の汁
で魚が仮死状態に
なるので魚捕りに
使用していた。



イリオモテアザミ

多年生草本。根はゴ
ボウのようにきん
ぴらにし、若葉は天
ぷらに。肝臓や腎臓
の薬としても使用。

サンスウギ



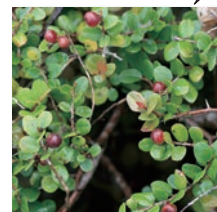
ヒメザンショウ

多年生草本。地上
を這うようにして
広がり、地面を覆
いつくす。花が咲
く時期は地面が紫
色のじゅうたんの
ようになる。ピン
ク色もある。



クロイゲ

常緑矮性低木。葉を
揉むと強い香りが
する。種は咳止め
に。葉や実は臭い消
しや毒消しとして
魚汁に入れたり、刺
身に添えた。



ハリツルマサキ

常緑半つる性低木。
小枝の先はとがる。
果実は熟すと黒紫
色になり甘く美味
しい。子どものおや
つになった。



ハリツルマサキ

常緑半つる性低
木。クロイゲに似
るが、葉の厚さや
色が違う。実が
ハート形になる。



ひと かが 人との関わり ススキ

ススキは建材をはじめ、燃料、肥料など、いろいろな物に利用される貴重な植物です。宮古では一般的に小さいススキをカヤ、大きなススキをギスキと呼び分け、それぞれに用途が違います。



ススキの穂で作ったほうき



カヤで作ったマグ

ギスキ ← 呼び分けて使っていた → カヤ

ミーギスキ

葉が幅広く高さは5mほどにもなる



ビギススキ

葉や芯は細く小さいトゲがしっかりしている



縄をなう用の細い柔らかいススキは、「ツカニ」とも言う。



棟の部分はギスキを編んでからかぶせた

屋根はギスキとカヤの両方を使用



壁はギスキを使用

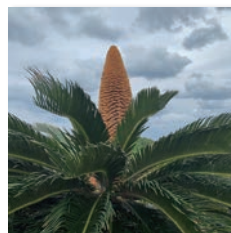


宮古の昔の住居：宮古島市総合博物館内

ひと かが 人との関わり ソテツ

ソテツは裸子植物と呼ばれるイチョウやマツの仲間です。日本のソテツは一種類で、日本固有種とされています。実や幹には毒があり、適切に処理をしないと中毒になります。食べものがない時代に毒のあ

るソテツまで食べたとして「ソテツ地獄」という言葉が知られていますが、琉球王府の時代には食糧として植林をしており、毒を抜いて食べることは日常でした。いまでも奄美地方ではソテツから味噌が作られています。



おかぶ雄株

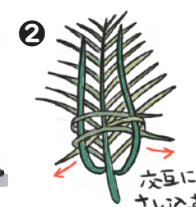
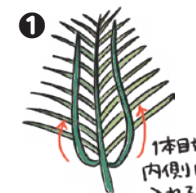
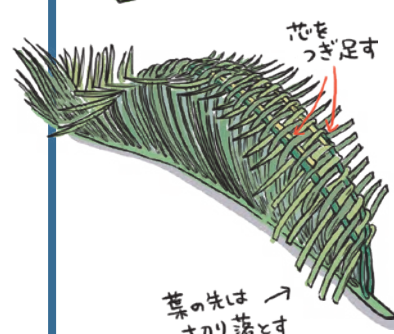


めかぶ雌株

潮風や台風に強く、岩場にも生えることから、防風林や畑などの目印に使った。

葉や幹は燃えやすいので薪に使った。

虫カブのつくり方

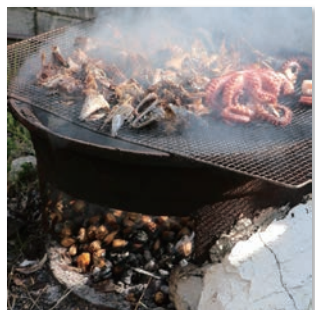
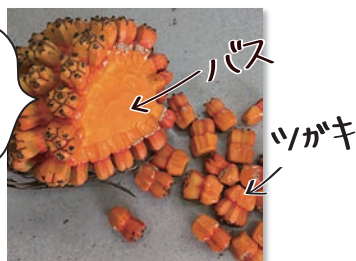


幹や実は、発酵させて毒抜きをし、おかゆや団子を作って食べた。

ひとのか 人との関わり アダン

宮古では、日々の生活の様々なところにアダンを利用してきました。実を食べ、煮炊きの薪として使い、草履や縄、カゴなど農作業の道具、家の材料として、余すところなく使いました。

あま 甘いのと甘くないののがあったよ！



ひだね 乾いた実は火種に使用

アダンの実

根の先に「兜」がついていて、地面についていないものを縄に使った。



しんめ 新芽やバスを調理



うみよう フダミ(海用ぞうり)



いも あみ アムディラ(芋用の網)やオウダ(もっこ)



アダナスの縄

(大きくて芯がみずみずしい)

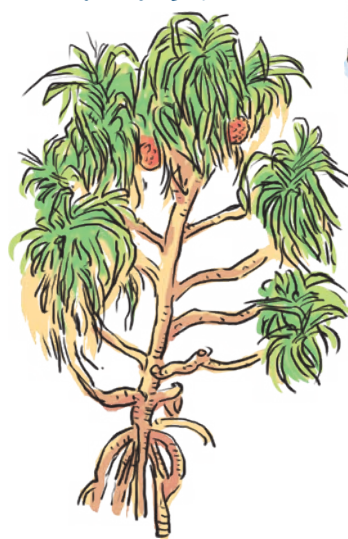
水 ミズアダン



はしら せん たくもの 家の柱、洗濯物を干す柱にした

小さくて硬い

石 イスアダン



か は みき 枯れた葉・幹

てい ど ん ある程度濡れていてもよく燃えた



イスアダンはなかなか腐らなかった



イスアダンの幹で作った釣道具のカウ

アダンの葉 アダンバ

ぼう し 帽子、カゴ、ゴザなどなんでもつくった



アダンバでバツタ



かっせん たま 合戦の弾はアダンの実



アダンバで風車

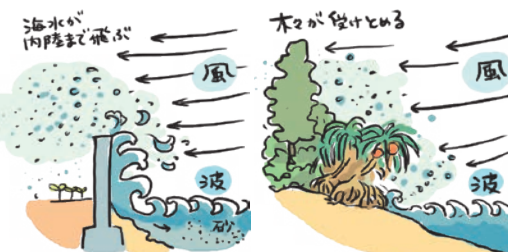


ビヨウタコノキ

じょうりよくしょうこうぼく 常緑小高木。幹はよく直立し、支柱根は少なめ。樹形が美しいので街路樹などに植栽される。

かい がいん てい ぼう 海岸の木々は堤防よりもすごい！？

堤防に波が当たると垂直に吹き上がり、風で飛ばされて内陸にまで塩が入り込むが、アダンなどの海岸林は、そういった塩の吹上や、砂の流出をふせぐと考えられている。



島尻散策コース(塩湿地)

きより おうふく しょうじかん と ほ
距離:往復約900m 所要時間:徒歩約15分



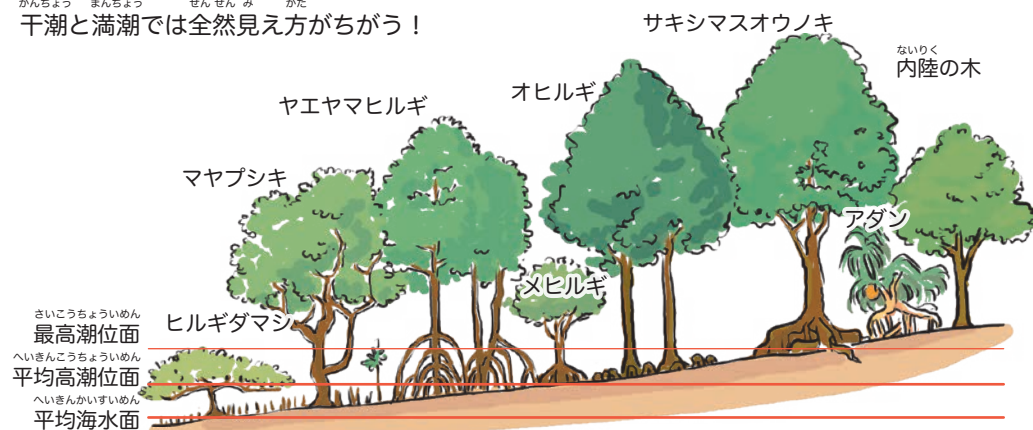
塩湿地の環境

塩湿地とは、満潮時に海水が入り込んでくる湿地のことで、海水と淡水が混ざりあう水域です。そのような環境に生育する植物の総称をマングローブといいます。島尻マングローブ林は、島最大の群生地で、宮古を分布の北限とするヒルギダマシを含め、ヤエヤマヒルギ、オヒルギ、メヒルギの4種を見ることがで

きます。河川ではなく、湧水から発達するマングローブ林は非常に珍しく、貴重です。島尻以外にも、伊良部島と下地島の間の入江、与那覇湾沿い、嘉手苅の入江湾に小規模な群落がみられます。現在、ヒルギダマシが観察できるのは島尻と入江湾のみです。



かんちょう まんちょう ぜんぜん み かた
干潮と満潮では全然見え方がちがう!



参考: 国際マングローブ生態系協会「海と生きる森-マングローブ林-」P.11 (1998)

マングローブの見分け方

植物名	メヒルギ	オヒルギ （別名 アカバナヒルギ）	ヤエヤマヒルギ （別名 シロバナヒルギ）	ヒルギダマシ	ヒルギモドキ	マヤブシキ
分布	鹿児島（かごしま） 奄美大島（あまみ） 沖縄島（おきなわ） 宮古島（みやこ） 石垣島（いしがき） 西表島（いりおもて）	● ● ● ● ● ●	● ● ● ● ● ●	● ● ● ● ● ●	● ● ● ● ● ●	● ● ● ● ● ●
樹高・根	7～8m ばんこん 板根	約10m しつこん 膝根	約10m しちゅうこん 支柱根	1～2m こきゅうこん 呼吸根(筍根)	2～10m 根は出ない	
葉・大きさ	丸い たまごがた 卵型 約10cm	ややとがる あつ 厚みがある 約13cm	とがる 約13cm	葉の裏は灰白色 約4～8cm	くぼむ 約3～7cm	
花・開花時期	 しよか 初夏	 はる 春	 なつ 春～夏	 夏	 6～12月	
果実または種子	20cm前後 すべすべ ほんなが 細長い 3～4月	20cm前後 はる 春	20cm前後 太くて 大きい 7～8月	う さんぶ 浮いて散布される 1.5～2.5cm 9～10月	約1.5cm 7～9月	

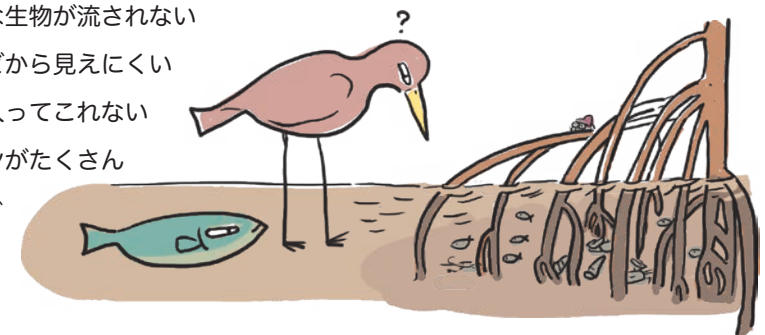
マングローブのやくわり

- 根や幹に生えている藻類などがエサになる
- 海岸浸食の進行を防ぐ
- 畑から流れ出る赤土を受け止め、サンゴ礁をまもる
- 台風や津波の波を和らげる
- 海水に溶け込んだ二酸化炭素を吸収し、地球温暖化対策になる



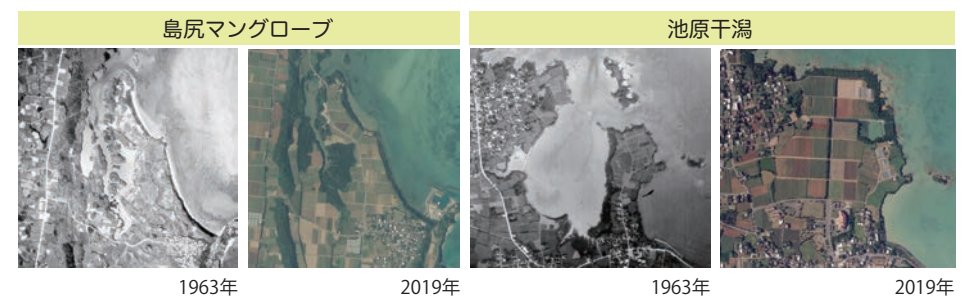
一見汚く見えるけど…
浅くて流れがなくて淀んでいるのがいい？

- 稚魚や小さな生物が流されない
- 天敵の鳥などから見えにくい
- 大型の魚が入ってこれない
- プランクトンがたくさん
- 紫外線を防ぐ



島尻マングローブと池原干潟(与那覇湾)のいまむかし

国土地理院の地図を見比べると、島尻は陸地化が進んでいます。与那覇湾西側の池原干潟は1990年に埋め立てられ、全てのヒルギ類が消失しました。



※国土地理院のウェブサイトの写真を加工して作成